

2024年 7 月 19 日

「アマチュア無線の魅力向上アイデア」提案書

1. 提案者
 - ・氏名（グループの場合は代表者）：門池 勇樹
 - ・年齢：
 - ・コールサイン（局免許保有者の場合）：J K 1 G Q X
 - ・連絡先 住 所：
 - メール：
 - ・（グループの場合）代表者以外の構成員の氏名・年齢：
2. 提案カテゴリ（AまたはBを選択）
 - A 既に開局している若者や初心者にとっての魅力を一層高めるアイデア
 - ☒ B アマチュア無線を知らない若者に興味を抱かせ資格取得を動機づけるアイデア
3. アイディア名：防災意識に絡めたアマチュア無線の認知度の向上
4. アイディアの概要（200字以内）：

日本は地震が多発する国であり、災害時に通信手段が途絶えるリスクがあります。アマチュア無線は、基地局を経由せず無線機同士で通信が可能であり、広範囲への情報伝達ができるため、有効な防災手段として注目されています。防災イベント等でアマチュア無線の有用性を紹介し、体験運用を通じてその魅力を伝えることで認知度を向上させることを提案します。
5. 詳細説明（図表を含めて4頁以内）：

アイディア提案の背景

日本は地震が多い国として知られており、日頃から地震の発生に備えた対策が必要である。大規模な地震が発生した場合、身近な携帯電話の通信が途絶えることがあり、緊急時に連絡が取れなくなるリスクがある。記憶にも新しい「令和6年能登半島地震」では、停電やケーブルの損傷などによって基地局の停止や大規模な通信障害が発生した。このような災害時の有効な通信手段として「アマチュア無線」を挙げられる。

災害時でアマチュア無線を活用するメリットとして、以下の2点が挙げられる。1点目は、通信が所持してる無線機のみで完結している点である。携帯電話による通信は必ず基地局を経由して行われるため、基地局が停止した場合には復旧まで通信ができなくなる問題がある。一方、アマチュア無線での通信はお互いの無線機で完結して行われる。そのため、ハンディ機の場合は停電の有無に関わらず相手方と通信が行える。2点目は情報の広範囲への伝達を一度に行える点である。アマチュア無線は公共の電波に対して発信するため、誰でも傍受することができる。そのため、被災地の状況や救助の有無を多くの人が知ることができる。

私の経験から、多くの人はそもそもアマチュア無線のことを全く知らないのではないかと考えている。そのような人々に対してアマチュア無線の魅力を発信しても、目に入らない可能性の方が大きい。そこでアマチュア無線の認知度を上げる方法として、アマチュア無線を趣味の1つとして知ってもらうのではなく、防災のための手段の1つとして知ってもらう方がよいのではないかと考えた。そのため、私たちは自治体などが開催す

る防災イベントにおいて、被災時のアマチュア無線の有意性を伝える時間を追加してもらうことを提案する。

提案手法

私たちの提案では主に以下の2点を行う。

1. 被災時のアマチュア無線の有意性を実例を用いて伝える。

2. 体験運用を通してアマチュア無線の魅力を感じてもらう。

1. では、アマチュア無線とは何か、携帯電話による通信とは何が違うのか、地震等の災害が起きた際に他の通信手段と比べてどのように活用ができるのかを伝える。東日本大震災で実際に活用された事例を交えることで説得力を強めることができると考えている。2. では、話を聞いて実際に興味を持った人に体験運用をしてもらうことで、自分が免許を取得した後のイメージを持ってもらうことを目的としている。

魅力度

この提案の魅力は2点ある。1点目はアマチュア無線を知らない人への話のきっかけにしやすい点である。多くの人が関心を持つ防災への備えの一つとしてアマチュア無線について説明することにより、アマチュア無線の存在を知らない層に一度は耳を傾けてもらいやすくなると考えている。防災の話題から自然にアマチュア無線について語る機会をつくることのできるため、アマチュア無線の存在を知る人を増やすことができる。そこで興味を持っていただいた方々に実際に体験運用等に参加していただくことで資格取得の気持ちを高めていくことができると考えた。

2点目はアマチュア無線が楽しいだけの趣味ではなく、非常時に役立つことを伝えることができる点である。若者がアマチュア無線免許を取った後に直面する課題として無線機の取得があげられる。特に小中高生にとっては無線機は高価なものであり、お小遣いの範囲内での購入はハードルが高いと考える。またお年玉等のまとまったお金を得た場合でも、他の趣味とお金の使い道を比較し、無線機を購入しない場合も大いに考えられる。そこで、無線機が趣味を楽しむだけに使うだけのものではなく、非常時にも役立つという認識を広めることにより、子供たちが無線機を持つことへの保護者の理解が得やすくなる。その認識が広まることで、アマチュア無線に興味を持った子供たちへの保護者による無線機購入の支援を期待できる。このような流れが実現すれば、若者の金銭的な問題の一部も合わせて解決することができると考えた。

実現に要する時間とリソース

本アイデアを実現する上で必要な要素として以下のようなものが挙げられる。

1. 協力してくれる防災イベントの調査
2. 話を行ってくれる人、体験運用の手伝いを行ってくる人の募集
3. イベントで話す内容の検討
4. 体験運用の準備

1. については協力してくれる自治体を募集する、または防災イベントに出展者として参加する方法が存在する。例として内閣府、防災推進協議会が開催している「ぼうさいこくたい」への参加が挙げられる。「防災に関する活動を実践する多様な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベント」と説明されており、防災とアマチュア無線を絡めた話をするのに適切なイベントである考えられる。実際に2019年、2021年にはアイコム株式会社が企業、自治体向けではあるが、アマチュア

無線等の防災通信のノウハウについての展示を行っている。既存のイベントを活用することで、様々な年齢層の人々が話を聞くことが期待でき、若者に限らず幅広い世代にアマチュア無線を知ってもらえることができると考えている。

2. の話を行う人は実際の災害を経験している人が適任ではあるが、人前で話せる人であれば問題ないと考えている。また、体験運用の際は学生を初めとした若者に手伝ってもらいたいと考えている。なぜならば新たな趣味を続けるには同年代の存在が非常に大切だからである。私も趣味としてアマチュア無線を続けてきた理由として同年代の友人との繋がりによるものがある。若者にアマチュア無線を勧める際に、そのような繋がりを作るサポートやきっかけ作りは可能な範囲で行うべきだと考えている。

3. の話す内容については総務省が出してる資料を元に作成すれば良いと考えている(参考資料1)。この資料には災害ボランティアでの利用場所の例や非常災害時にアマチュア無線が活躍した事例が書いてあるので、話したい内容を定めるうえで参考になると考えている。また、話す内容はアマチュア無線の概要と被災地で活用された例でとどめて置くのが良いと考えている。なぜならば話を聞きに来た人たちは災害への備えについて聞きたいのであり、アマチュア無線について聞きに来たわけではないからである。私たちはアマチュア無線そのものを知ってもらえる点に価値があると考えている。アマチュア無線の魅力については体験運用をしている際に色々と伝えればよいと考えた。

4. に関しては日本アマチュア無線連盟が公開している「体験運用マニュアル」(参考資料2)を元に行うのが良いと考えている。マニュアルにある体験運用交信内容例を印刷して手元に用意しておくことでスムーズな進行が期待できる。無線機やアンテナ等の体験運用に必要な機材に関しては個人が所有しているものを活用することで、機材への思い入れ等を来場者に伝えることができ、アマチュア無線の奥深さを知ってもらえると考えた。また、体験運用後には3, 4アマの取得の方法や最初に購入するのにおすすめの無線機を紹介した紙を配ることで、帰宅後でも見返せる資料として使ってもらえると考えた。

6. 参考情報

・ 参考資料 :

1. 総務省. 「社会貢献活動でのアマチュア無線の活用」
https://www.tele.soumu.go.jp/resource/j/others/ama_social_contribution/003.pdf
2. 日本アマチュア無線連盟. 「体験運用マニュアル アマチュア無線の楽しさをみんなで広げよう！！-体験運用でアマチュア無線を知ってもらうためには-」
https://www.jarl.org/Japanese/6_Hajimeyo/TaikenManual.pdf

・ Web情報 :

- 「アマチュア無線の楽しさをみんなで広げよう！！-体験運用でアマチュア無線を知ってもらうためには！？-」、
https://www.jarl.org/Japanese/6_Hajimeyo/taikenunyou.html#column
- アマチュア無線の継続的発展会議.” アマチュア無線継続的発展会議第一次報告書” ,
2024-06. https://www.jarl.org/Japanese/4_jarl/4-1_Soshiki/SD_kaigi/SD_Houkoku1.pdf (参照 2024-07-14)
- 総務省.” 令和6年版情報通信白書総務省編” ,
2024-7. <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/pdf/00zentai.pdf> (参照 2024-07-13)
- NHK.” 救援活動を支えた無線” ,

2019-3. https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0026021031_00000
(参照 2024-07-14)

- JARL. ” 東日本大震災におけるJARLの活動” ,
2011-7. <https://www.jarl.org/Eastern Japan earthquake.htm> (参照
2024-07-14)
- ぼうさいこくたい2019. ” 災害時のBCPに頼れる無線機たち” .
<https://bosai-kokutai.jp/2019/detail/W4-12/> (参照 2024-07-18)
- ぼうさいこくたい2021. ” 進化し続けるトランシーバー –トランシーバー
10年間進化–” . <https://bosai-kokutai.jp/2021/002/> (参照 2024-07-18)
- 日本アマチュア無線連盟. ” 体験運用マニュアル”